
令和3年度 事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

学校法人 和田実学園

東京教育専門学校

目白幼稚園

目次

1	法人の概要	
1.1	基本情報	2
1.2	建学精神	2
1.3	沿革	2
1.4	設置する学校	3
1.4.1	園児・学生（2021年5月1日現在）	4
1.4.2	収容定員充足率（毎年度5月1日現在）	4
1.5	理事・監事・評議員（2022年3月31日現在）	4
1.6	教職員（2022年3月31日現在）	5
1.7	施設等（2021年3月31日現在）	6
2	事業の概要	
2.1	東京教育専門学校	7
2.1.1	重点目標	7
2.1.2	教育活動	8
2.1.3	学習成果	10
2.1.4	学生支援	11
2.1.5	教育環境	12
2.1.6	地域社会・卒業生への貢献	12
2.2	目白幼稚園	12
2.2.1	園運営について	12
2.2.2	保育実践について	12
2.2.3	健康・安全について	13
2.2.4	園児募集について	13
2.2.5	保育環境について	13
2.2.6	その他	13
2.3	法人	
2.3.1	理事会開催状況	14
2.3.2	評議員会開催状況	15
2.3.3	理事会における重要審議事項と決議内容	15
3	財務の概要	
3.1	貸借対照表の概要	17
3.2	資金収支計算書の概要	17
3.3	事業活動収支計算書の概要（2021年度）	17

1. 法人の概要

1.1 基本情報

名 称	学校法人 和田実学園
所在地	171-0031 東京都豊島区目白2丁目38番4号
電話	03-3983-3385
FAX	03-3983-3386

1.2 建学精神

本学園は、幼児教育を教育学の体系に位置づけて科学的に論じて、日本における独自の保育学を主張した和田實によって創設された。和田實は理想とする保育を実践するために、1915年（大正4年）に目白幼稚園を設立後、理想とする保育を実践するためには良い保育者の必要性を痛感して、1930年（昭和5年）に現在の東京教育専門学校を創設した。そして、和田實はその一生を幼児教育並びにその指導者の養成に捧げ、その道に進む人に多くの道標を残した。

創設者和田實とその遺志を引き継がれた芦田昇に依って示された建学の精神「知性と愛と自由」。幼稚園においては、その精神に満ちた善良な市民としての人格の基礎を培う幼児教育思想を現実践し、東京教育専門学校においては、教育理念として「感謝・尊敬・寛容を中心とした性格陶冶を基礎条件とした誘導的方法による幼児教育」を明確に位置づけ、「その教育理念を理解し、職業人・社会人として必要な資質の完成を目指すため、出会う人と共に感動を共有しながら地域社会に貢献できる人材の育成」を教育目標として、創設以来有為な人材を数多く輩出してきた。

建学の精神については、令和元年度の和田實研究委員会が中心となり、建学の精神の表現についての検討を行い、文案を作成した。今後も和田實研究委員会、評議員会等で適正な表現となっているかの確認を行っていく。

1.3 沿革

1915(大正4)年	目白幼稚園開園(東京府北豊島郡高田町=現在地)。 初代園長に和田實が就任。
1930(昭和5)年	目白幼稚園保姆養成所開校(東京市淀橋区下落合)。 初代所長に和田實が就任。 目白第二幼稚園開園。初代園長に和田實が就任。
1932(昭和7)年	和田實著『実験保育学』が出版される。
1934(昭和9)年	「目白幼稚園保姆養成所」を「東京目白保母学校」へ

名称変更。

- 1943(昭和 18)年 和田實著『保育学』が出版される。
- 1944(昭和 19)年 目白幼稚園は建物強制疎開の為閉園。
第二目白幼稚園は戦時託児所となる。
- 1945(昭和 20)年 戦災で校舎焼失の為休校。
- 1950(昭和 25)年 「東京目白保母学校」を「東京教育専修学校」へ名称変更し再開。目白幼稚園内にて1部(昼)2部(夜)制となる。
- 1951(昭和 26)年 学校法人 目白保育学園設立。初代理事長に和田實が就任。
文部大臣指定の幼稚園教員養成機関となる。
- 1958(昭和 33)年 専門学校2年制となる。
- 1968(昭和 43)年 3階建新校舎落成(新宿区下落合)。
- 1969(昭和 44)年 厚生大臣の指定校となる。
- 1976(昭和 51)年 「東京教育専修学校」を「東京教育専門学校」へ名称変更。
下落合校舎5階まで増築。
- 1990(平成 2)年 「学校法人 和田実学園」へ名称変更。
専門学校創立60周年を迎える。
- 1995(平成 7)年 専門士の称号付与校となる(幼稚園教諭・保母養成科)
- 1999(平成 11)年 幼稚園教諭・保育士養成科へ科名変更。
2号館校舎開設(新宿区下落合)
- 2000(平成 12)年 専門学校創立70周年を迎える。
新教育課程の認可を受け、1・2号館での授業開始。
- 2005(平成 17)年 幼稚園創立90周年を迎える。
- 2007(平成 19)年 和田實著『幼児教育法』現代語版が発行される。
- 2009(平成 21)年 新園舎・新校舎落成(豊島区目白)。2号館校舎を閉鎖。
- 2015(平成 27)年 幼稚園創立100周年記念式典を行う。
- 2016(平成 28)年 下落合校舎(1号館)を閉鎖。

1.4 設置する学校

設置する学校	学校設置認可
目白幼稚園	1915(大正4)年11月1日
東京教育専門学校	1930(昭和5)年8月19日(旧名称:目白幼稚園保母養成所)

1.4.1 園児・学生(2021年5月1日現在) (単位:人)

学校	収容定員数	在籍園児・学生数
目白幼稚園	100	38
東京教育専門学校	300	211

1.4.2 収容定員充足率(毎年度5月1日現在)

	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (平成31年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)
目白幼稚園	32%	24%	29%	31%	38%
東京教育 専門学校	58%	60% (内訓練生 10%)	73% (内訓練生 10%)	80% (内訓練生 10%)	70% (内訓練生 10%)

1.5 理事・監事(2022年3月31日現在)

定員 理事6名 監事2名

職名	氏名	就任	常勤/ 非常勤	備考
理事長	北原 隆史	2017年4月1日	常勤	東京教育専門学校長
理事	近喰 晴子	2021年3月27日	常勤	東京教育専門学校副校長 目白幼稚園園長
理事	和田 志郎	2021年5月1日	非常勤	卒業生
理事	島本 悦次	1999年4月1日	非常勤	病院理事長、学園園医
理事	西島 義昭	2011年4月1日	非常勤	弁護士
理事	中野 宏	2017年6月1日	非常勤	会社役員
監事	平井 久雄	2009年4月1日	非常勤	会社役員
監事	坂本 光夫	2017年4月1日	非常勤	会社役員

評議員(2022年3月31日現在)

氏名	就任	常勤	備考
北原 隆史	2017年4月1日	○	学校法人 和田実学園理事長 東京教育専門学校校長
藤村 公三郎	2021年4月1日	○	東京教育専門学校常勤講師
島本 悦次	2003年4月1日		病院理事長 学校法人 和田実学園園医
島根 恵	2006年4月1日		音楽家
行木 友子	2008年4月1日		保育園施設長
町田 章一	2002年4月1日		大学教授
西田 祐恒	2014年4月1日		保育園園長
石田 啓子	2020年4月1日		
森 光子	2020年4月1日		
藤田 興彦	2020年11月1日		
和田 志郎	2021年3月26日		
会田 朋世	2017年4月1日	○	東京教育専門学校副校長
近喰 晴子	2020年4月1日	○	東京教育専門学校副校長 目白幼稚園園長
大沼 郁子	2020年4月1日	○	目白幼稚園副園長
門山 タツヤ	2021年3月26日		
門山 京子	2021年4月1日	○	目白幼稚園教諭

1.6 教職員(2022年3月31日現在)

(単位:人)

区分		目白幼稚園	東京教育専門学校	計
教員	本務	4	11	15
	兼務	0	25	25
職員	本務	0	9	9
	兼務	4	2	6
計		8	47	55

1.7 施設等(2021年3月31日現在)

所在地：東京都豊島区目白二丁目38番4号

土地：906.32 m²

建物

区 分	種 別		平米数 (m ²)
幼稚園	園舎	1階建	402.06
	園庭	第1園庭、第2園庭	633.09
学校	校舎	7階建(2~7階)	1692.48
幼稚園・学校	地下ホール	地下1、2階	537.63

2 事業の概要

2.1 東京教育専門学校

2.1.1 重点目標

(1) 高等教育無償化制度対象機関としての継続

①財務状況の公表（法人）

②自己点検評価の充実 学校関係者評価の実施と公表

- ・各委員会、部署による自己点検・評価の基本方針、対策の確立
- ・学生の主体的な学修を促すための工夫への点検評価
- ・学生自身の達成度・満足度に関する認識の把握
- ・実効的な PDCA サイクルの確立による内部質保証システムの構築
- ・学校関係者評価委員の選出と学校関係者評価の実施（感染症対策として文書での実施）
- ・学校関係者評価の公表

③評価のあり方の検討

- ・個々人の学修成果の見える化の検討
- ・成績評価の客観的指標化 GPA（平均評価点数）の導入

以上、申請のための条件を整え、来年度においても高校教育無償化対象校として承認された。

(2) 学生募集のあり方の見直し

①A0 募集の強化：個別での説明会の強化

②保育講座、体験授業、個別見学会、入試相談会の設置

③高校説明会の回数の確保

④本校 HP への誘導の試み

昨年度からの A0 入試のエントリーのあり方の変更より、入試個別相談会とそれに付随しての A0 面談の回数を増加し、保育講座の開催時期も早め、回数も増やしているがそれを踏襲しながらより個別での対応をより重視して取り組んだ。

また、高校説明会の回数確保増加に取り組むため、募集における媒体業者のさらなる見直しを予算範囲内で行い、ライバル校の HP から本校 HP への誘導も実施した。

令和 3 年度の募集状況の特徴として、HP からの資料請求及びイベントへの参加に繋がりがり受験となったケースが例年と比較して多くなっている。また、卒業生推薦での受験も増加している。引き続き、HP のあり方及び本学園への HP 誘導企画は重要な広報活動と位置づけ取り組んでいく。また、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う同窓会及び卒業生との連携の機会が減ってしまっているが、状況を考慮しながらも徐々に活動を再開させ、関係強化をしていくことが求められている。

令和 2 年度訓練生数減の反省から、訓練生募集にも全教職員で取り組み東京都の全ハ

ローワークを訪問すると共に、1月の訓練生説明会の回数の増加、夕刻からの開催も実施し、より多くの方に2つの資格が取得できることのメリットとそのことによる負担についての正確な情報提供、本校養成教育の歴史・特徴を伝えた。

結果、志願者数101名（内男子10名）、受験者数101名（内男子10名）、合者数101名（内男子10名）入学者数101名（内男子10名）であった。入学者101名の内訳は下記の通りとなっている。

A0入試において34名（昨年度46名）、推薦・指定校推薦において27名（昨年度16名）、一般入試において5名（昨年度9名）、計66名（昨年度71名）の合格者、辞退者は0名で66名の一般学生の入学となった。昨年度71名からは5名の減少である。山手線内側の同様な保育者養成の専門学校の募集状況が一様に厳しい結果であることから高校生の都心への動きに消極的であることは推測されるが、このことを真摯に受け止め、募集活動のさらなる工夫と新たな取り組みを考えなければならない。

平成29年度から導入している東京都委託訓練（保育士）については、令和3年度は、昨年度40名の募集枠から35名の募集枠となった。12月に東京都全ハローワークへの訪問と1月に5回の訓練生説明会を実施した。そのうち2回は金曜日午後6時から開催、3回は従来通り土曜日に実施した。その結果、40名の応募があり面接の結果35名が訓練生として入学することとなった。昨年度24名からは11名の増加であり、その結果を分析検討し、令和4年度の訓練生募集につなげていきたい。

したがって、令和3年度新入生は101名となり新1年生は101名でスタートしている。

また、新2年生は復学者2名を加え90名、Eクラス3名で計194名スタートしている。

[令和4年度 在学者数]

第1学年次：A・Cクラス 101名（内男子10名）

第2学年次：B・D・Eクラス 93名（内男子12名）

2.1.2 教育活動

本学園の教育理念を「感謝・尊敬・寛容を中心とした性格陶冶を基礎条件とした誘導的方法による幼児教育」として明確に位置づけ、「その教育理念を理解し、職業人・社会人として必要な資質の完成を目指すため、出会う人と共に感動を共有しながら地域社会に貢献できる人材の育成」を教育目標としている。

令和2年度では、誰もがこのような事態になるとは予想できない激動の年になり、入学式に始まり予定していた行事の全てが中止となった。しかし、この不測の事態に際し、教職員一同が的確に柔軟に対応し、安全に最大限充実した養成教育は確保できた。日々変わる状況に対応し保育者養成をストップさせないため、今まで大切にしてきた教育活動、特に教育課程外の体育祭・保育祭・清掃活動といった活動及び課外活動などを諦めながらも、授業の質

と学生対応を担保しつつ歩んだ1年となった。

令和3年度においても新型コロナウイルス感染症の蔓延の状況は継続し、緊急事態宣言が発令された期間も長く予定していた教育活動（体育祭、キャンプ実習、研究会など）が実施できないことも多々あったが、昨年度から蓄積して来た教育方法のあり方の工夫により、入学式（予定通りの日程で保護者・来賓なしでの実施）を始め保育祭（10月から12月に期間を変更して内容も大幅に変更して実施）など実施内容・実施日を変更するなどして教育活動を実施した。

具体的には、体育祭は、9月30日実施予定だったが、緊急事態宣言の延長により中止となった。キャンプ実習も8月中旬に実施予定であったが緊急事態宣言発令中であること、宿泊を伴う活動への安全の確保が難しいという判断から中止となった。保育祭は12月24日に実施できた。安全への配慮のため実行委員と担当教員が再三検討を行い、事前に「各クラス10分程度の動画」を作成し、当日は3クラスずつ、それぞれ1限・2限に分散して鑑賞会という形式で実施した。また、動画鑑賞の合間には、有志による生パフォーマンスや校長の歌などもあり和やかな会となった。

授業は、学年別の分散登校を実施し8回の対面授業、7回の遠隔授業を行った。授業回数の確保のため、学事日程や時間割の変更、補講の調整を行なった。

令和2年度の出欠席の取り扱いの特別措置（授業回数の1/3：5回を超える欠席があった場合単位取得不可）から従来通り（授業回数の1/5：3回を超える欠席があった場合単位取得不可）に戻し、遅刻も欠席とする従来通りの取り扱いに戻した。

期末試験は、対面での一斉試験に戻した。学年ごとの分散登校であったため、試験期間は7日間となった。後期期末試験では、新型コロナウイルス関連等の理由により本試験・追再試験を受験できなかった学生に対して特別再試験を設けて対応した。

昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、通常通りの実習ができなかったが、令和3年度においては、例年6月に予定されていた1年生対象の保育園での体験学習（5日間）を7月に延期して実施した。実施を遅らせることにより、準備・学習期間をより長く確保でき充実した体験学習となった。9月には予定通り目白幼稚園見学実習が実施できた。観察に徹することを主な実習内容としたが、学生にとっては大きな学びとなった。

コロナ感染者が拡大した8月施設実習においては実習受け入れ中止になる施設が多くなり他の実習に入れ替える、2月保育実習では卒業予定学生のみ演習形式に切り替えるなど臨機応変な対応が求められた。演習では全教員の協力のもと指導にあたり、対象の学生も満足できる学習内容を提供することができた。一部、変則的な実習となったが、それでも数名の学生を除き実習が完結できたことは受け入れ園のご協力があったからこそであり、今後も実習園との協力体制をしっかりと確立していくことが重要であると認識させられた。

1年初めての本格的な実習となる「教育実習」では事前指導の徹底ができなかったことが反省である。実習指導開始から実習実施までの期間が短いことにより学生の指導内容理解不

足があり、実習日誌の記録のあり方に不備があり再提出者が多く出てしまった。実習態度に対する指摘もあり、挨拶など実習に取り組む姿勢への教育の徹底と各教員間での共通理解を図る必要がある。その他、「実習巡回指導の記録」等の実習保存書類について管理しやすいように見直しを行った。

[令和3年度卒業生数等]

卒業生数 109名（内男子14名）

留年者数 3名（内男子1名）

休学者数 2名

退学者数 8名

除籍者数 1名

2.1.3 学習成果

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3ポリシーを基に、認可された保育者養成課程に基づき教育活動に取り組んでいる。各授業においては、遠隔授業と対面授業の併用だったが、到達目標及びテーマを明確に明文化し、主体的に取り組むことができている。遠隔授業では課題も存在したが、毎回の課題提出期間を前期においては1日後、後期においては2日後と令和2年度の5日後からは短く設定し、令和2年度の課題であった学生が規則正しく勉学に取り組めるようなルール作りは改善できたと思われる。

保育者としての資質として「職業人としての意識」「共存しながら協力しながら育っていく姿勢」「コミュニケーション能力」「健康管理・生活管理」などを教育課程、教育課程外の活動を通して育むことの学習成果は、令和3年度は新型コロナウイルスの影響はありながらも安全への配慮を十分に行い実施内容も工夫しながら、段階的に活動が再開でき、令和2年度の状態よりは改善できたと思われる。

成績に関しては、令和2年度同様、GPA（平均成績）を視野に入れた成績評価を実施し、学習成果の可視化を図った。また、GPA（平均成績）の成績が下位1/4の学生には個別指導・支援を実施している。

このような状況において、進路決定者の94.2%が幼稚園教諭2種免許、保育士資格を活かした就職先であった。また、1名は大学へ進学している。

令和4年度は、対面授業・遠隔授業のあり方をさらに検討工夫すると共に、教育課程外の活動に関しても今までの工夫や柔軟な発想を持って安全を確保しつつできるだけ再開・実施する方向で考えていく。

2.1.4 学生支援

(1) 進路支援の充実

保育者養成校として、資格取得と共に保育現場への就職支援は、職業人を養成する専門学校としての責務であり、より一人ひとりにマッチしたきめ細やかな進路に対して支援が求められる。特に、近年の保育者不足による求人件数の多さ（令和3年度求人件数1,606件）は、一見就職が容易にできるような印象があるが、むしろ本当にミスマッチを少なくし本当に希望する現場へ繋げられる支援はかなり難しいのが現状である。

令和3年度においては遠隔授業を取り入れたことにより対面でのホームルームの時間がなかなか確保できない状況であった。そのため、本校の就職活動の手引書を使用した継続的な進路支援が難しい状況であった。その分、個人面談・個別指導に時間を確保するように努めた。学生からの個別指導の依頼も多かったが、例年に比べ自己開拓による就職決定者の割合が例年に比べて多くなり、その結果企業保育への就職率が昨年度12.6%から19.4%と上がってしまった。先生方との学生の就職状況の情報、求人情報の共有する必要性を強く求められている。このことを踏まえ、令和4年度ではより就職支援を強化する体制を整えるようにした。

就職希望学生数104名中103名が進路決定をした。3月末時点での就職率は95.1%（昨年度86.4%）であった。その内訳は下記の通りである。

幼稚園	12名	12.2%
保育園	46名	46.9%
こども園	3名	3.1%
施設	11名	11.2%
企業保育	19名	19.4%
公立施設	6名	6.1%
一般企業	1名	1.0%

この他、進学が1名、就職を希望しないが4名であった。

(2) 各種奨学金の対応による経済支援

今年度は、通常の種類奨学金の対応による経済支援はもちろん、新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響により、経済的に厳しい状況にある学生の学びを継続するため「学生等の学びを継続するための緊急給付金」の対象者49名に対して、日本学生支援機構を通して特別給付金の支給がなされるように手配を行った。

(3) 健康状態の把握

健康診断は4月17日に実施した。検査項目は、胸部デジタル撮影、身体測定、視力、尿検査、血圧、診察である。また、オリエンテーションにおいて「健康に関する調査」を

実施し学習環境や生活面で気になる学生に対して担当教員が個別に面談をして支援した。
昨年に引き続き、毎日の検温、健康状態を記録するようにし、実習にも備えるようにした。

2.1.5 教育環境

昨年度より新型コロナウイルス感染症への対応として、教育環境は様々な対応に迫られている。昨年度と同様に、安全な環境を確保するため、学年別での対面授業を実施し、使用教室を大教室、地下ホールのみとした。

また、後期においては午前午後で学年を入れ替えるようにし、校内での食事をしないようにした。手指の消毒はもちろん、教室での換気の徹底、使用した教室の机・椅子・ドアノブなどの消毒の徹底の他、大教室の空間除菌機を導入は継続している。また、登校時に検温できるように体温計測器を継続して設置した。

小教室及びピアノレッスン室には、昨年度後期から継続してプラズマクラスター発生機能の空気清浄機を導入している。

2.1.6 地域社会・卒業生への貢献

研修施設としての充実

①保育士等キャリアアップ研修プログラムの実施

8月16日（月）～8月18日（水） 「障害児保育」分野

8月18日（水）～8月20日（金） 「保健衛生・安全対策」分野

②各幼児教育・保育関連団体、その他文化活動団体への施設提供

子どもの文化研、青山シンフォニー、など

令和3年度からは文科省の方針により更新講習は実施しなかった。保育士等キャリアアップ研修は「障害児保育」「保健衛生・安全対策」と今までの1分野から2分野増やして実施した。「和田実研究会」は実施できなかった。その他の施設提供事業は、子どもの文化研への施設提供を始めオーケストラの練習など施設の利用が増える結果となった。

2.2 目白幼稚園

2.2.1 園運営について

- ・園則の見直しをした。（学校教育法の変更、保育時間の変更などにより）

2.2.2 保育実践について

- ・遊びを中心としながらも、組織的な保育活動や発達支援ができるよう指導計画の充実を図った。
- ・感染予防を徹底しながら、園行事に取り組んだ。特に運動会は地下ホールにて2交代で実施した。落ち着いた雰囲気の中、親子共々楽しいひと時を過ごせ、保護者からも好評であった。

2.2.3 健康・安全について

- ・感染症予防の徹底を図った。園児の家庭においては、数件の感染の報告があったが園児の感染はなかった。
- ・定期的に避難訓練を実施した。リアルな訓練もあり周囲を驚かせてしまった。

2.2.4 園児募集について

- ・未就園児の体験保育の充実を図った。園児募集には直接的な影響はなかったものの、当園への関心は深まった。
- ・中途入園・退園はあったものの、4月当初の園児数はほぼ維持できた。

2.2.5 保育環境について

- ・ヒートポンプの一部が故障した。故障箇所が特定できず、修理については次年度に先送りとなった。
- ・遊具や建物の劣化が見られるようになり、応急処置を行った。
- ・園児用ロッカーの一部を買い替えた。
- ・ダイナミックな方道ができるよう、大型遊具を園庭に開放した。

2.2.6 その他

- ・産休代替え保育要員として、短時間勤務者2名を採用した。
- ・処遇改善対象の拡大に伴い処遇改善手当制度を導入した。

2.3 法人

2.3.1 理事会開催状況

	開催日	報告及び審議事項
第1回	令和3年4月27日	給与規定、教職員旅費規程等の改定案について 学校法人学園施設貸出規程（案）について Eクラス学費について 前理事長マンション敷金取り扱いについて
第2回	令和3年5月25日	令和2年度事業報告及び決算の承認の件
第3回	令和3年6月22日	令和3年度第1回評議員会の件
第4回	令和3年7月20日	目白幼稚園園庭とその対応について 東京教育専門学校学生募集状況について
第5回	令和3年8月24日	目白幼稚園園則改訂について 目白幼稚園空調の不具合について 照明機器の交換・LED化について
第6回	令和3年10月19日	来年度募集に関する予算について 目白教育サービスの対応について
第7回	令和3年11月22日	目白幼稚園空調機について 令和4年度学生募集基本方針と予算について 教職員国内旅費規程の一部変更について 役員報酬のあり方再確認と「役員等に対する報酬等の支給の基準別表」の変更について 寄付金事業について
第8回	令和3年12月22日	東京教育専門学校学生募集状況・目白幼稚園園児募集状況について 目白幼稚園空調機設置完了について 寄付金事業について 理事長保険（労災保険特別加入）について
第9回	令和4年2月8日	東京教育専門学校学生募集状況・目白幼稚園園児募集状況について 寄付金事業について 令和4年度予算案について 令和4年度学園組織案について 屋上の時計修理などについて 理事長保険（労災保険特別加入）について

第 10 回	令和 4 年 3 月 1 日	令和 4 年度予算案について 屋上の時計修理などについて 令和 3 年度賞与について 理事の競業承認の件 目白教育サービスの対応について 役員再任と監事再任辞退に伴う後任について 評議員会開催日程について
第 11 回	令和 4 年 3 月 2 8 日	令和 3 年度第 2 回評議員会の件 屋上の時計修理などの件 令和 3 年度 3 月末金一封の件 令和 4 年度予算案について 目白教育サービスについて

2.3.2 評議員会開催状況

	開催日	審議事項
第 1 回	令和 3 年 5 月 2 9 日	令和 2 年度事業報告の件 令和 2 年度決算承認の件 令和 2 年度会計監査報告について
第 2 回	令和 4 年 3 月 2 6 日	令和 4 年度事業計画及び予算案の件 理事・監事選任の件 目白幼稚園園則改訂の件

尚、第 1 回評議員会において整っていなかった資料と質問などへの回答として、令和 3 年 7 月 1 6 日付けで令和 2 年度事業報告資料、財務状況、東京都委託訓練についての説明文書を各評議員へ送付した。

2.3.3 理事会における重要審議事項と決議内容

(1) 教職員旅費規程等の改定案について

人件費削減のため、教職員国内旅費規程を策定したが、その注意事項に記載されている表現を再度見直し記載内容を変更することを審議し決議した。

(2) 目白幼稚園園則改訂について

従来が目白幼稚園園則において記載事項が現状に即していない事項(学校教育法の変更、保育時間の変更等)を修正した目白幼稚園園則改訂案が審議され決議された。

(3) 令和 4 年度学園組織案について

学園組織検討委員会を設置し検討した結果を報告し、従来あった「学園管理組織規程」に立ち戻ることを基本とした令和4年度学園組織案が審議されその方向性について承認された。具体的な改革にあたっては企画室設置準備会議を設置し十分かつ慎重な議論を経て実施していくことが重要であるとした。

(4) 令和3年度賞与について

令和3年度賞与について検討審議した結果、令和3年度賞与ではなく金一封として200万円の枠で支給することが決議された。

(5) 令和4年度事業計画及び予算案について

令和4年度資金収支予算：収入 239,957,703 円
支出 235,549,403 円 差額 4,408,300 円

①人件費予算として

- ・定期昇給有
- ・賞与0.5ヶ月
- ・役職手当削減
- ・教育研究経費、管理経費は基本的に令和3年度実績予想値
- ・管理経費広報費は9,400,000円とする。

②設備関係予算

- ・幼稚園、地下ホール照明LED化費など350万円を加える。

③図書支出として10万円を加える。

事業計画としての重点課題：

- ①学園組織改革
- ②学生募集・園児募集のさらなる強化
- ③幼稚園園庭問題の解決策
- ④就職支援・キャリア教育支援・卒業後支援の強化
- ⑤教育施設設備の整備計画
- ⑥保育者養成教育のあり方の見直しと共通認識の確立
- ⑦2号認定児への配慮と2歳児保育・園児の運動経験の充実
- ⑧寄付金事業周知のための広報活動の充実
- ⑨目白教育サービス株式会社の抜本的改革と新たな活用計画の企画立案

評議員会で出された意見を踏まえが審議した結果、上記のように決議された。

3 財務の概要

3.1 貸借対照表の概要

(単位：千円)

	2020(令和2)年度	2020(令和3)年度	増減
固定資産	1,151,492	1,094,195	△ 57,298
うち有形固定資産	1,117,782	1,062,796	△ 54,986
流動資産	124,893	118,210	△ 6,683
資産の部合計	1,276,385	1,212,404	△ 63,981
固定負債	3,061	749	△ 2,312
流動負債	123,301	91,484	△ 31,817
基本金	1,826,086	1,827,349	1,263
繰越収支差額	△ 676,063	△ 707,178	△ 31,115
負債及び純資産の部合計	1,276,385	1,212,404	△ 63,981

3.2 資金収支計算書の概要

(単位：千円)

	2020(令和2)年度	2020(令和3)年度
収入総額(=支出総額)	461,201	400,788
うち翌年度繰越支払資金	89,533	85,567

3.3 事業活動収支計算書の概要(2021年度)

(単位：千円)

		法人	幼稚園	専門学校	全体
教育活動 事業収支	収入	3,137	37,581	221,183	261,901
	支出	10,445	36,672	244,697	291,814
	差額	△ 7,308	909	△ 23,514	△ 29,913
教育活動 事業外収支	収入	0	0	61	61
	支出	0	0	0	0
	差額	0	0	61	△ 61
特別収支	収入	0	0	0	0
	支出	0	0	0	0
	差額	0	0	0	0
事業活動 収支	収入	3,137	37,581	221,244	261,962
	支出	10,445	36,672	244,697	291,814
	差額	△ 7,308	909	△ 23,453	△ 29,852